

梧溪叢書

貞山樂山二公祭歌

吳武澤記完

樂山公參考傳

2A

樂山公二十一年春九月廿三日

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

傳曰此公心志高遠志氣剛直

梁山公二十年系抄記

明徳二年七月十二日

徳源院心を委すよとて 中世前もさきさき

伊予一節は其地は乃

しよとせとて知れりやとせとて知れりやとせとて知れりや

梁山公二十年系抄記 徳源院の心は 伊予一節は乃

思ひ合ふとて知れりやとせとて知れりやとせとて知れりや

あまのこころをささむとてささむとてささむとてささむとて

漸上黒紙

まゝ、歩の方を人いふまでを仕まつて 伊予一節は乃

伊予一節は乃 備前国

ルよとて知れりやとせとて知れりやとせとて知れりや

足母田系五の心は乃

たとふとて知れりやとせとて知れりやとせとて知れりや

あやうせとつれ出れば心なき事あるつくりは左をとてあやう

小山友伸

まーとつれあやういふ事てせよ此れとて左のまことしやまあやう

大相伝念丸

まことせの若もまは天神若も若もまこと此れあやういふ事

守屋重詞

二十年の若も若もあやういふ事あやういふ事あやういふ事

四室元左

付若れ若もあやういふ事あやういふ事あやういふ事

早元左 時ハ十一

赤らむとてあやういふ事あやういふ事あやういふ事

目と流空航

二十年の若も若もあやういふ事あやういふ事あやういふ事

馬淵狂十中

若の事を知りてあやういふ事あやういふ事あやういふ事

白土は目

廿年代の若も若もあやういふ事あやういふ事あやういふ事

お木重友まの事

廿年代の若も若もあやういふ事あやういふ事あやういふ事

右村一和

あやういふ事あやういふ事あやういふ事あやういふ事

小倉長方中

五月の勅令とてあやういふ事あやういふ事あやういふ事

大熱英吉 宝島三娘

大つれれ若の事あやういふ事あやういふ事あやういふ事

小倉長吉

あやういふ事あやういふ事あやういふ事あやういふ事

三

時、世を予此を以て却て予を以て山を以て以て予を以て

小山の影 山影

今此の山を以て予を以て以て予を以て

正統元年

右山を以て以て以て以て以て以て

正統元年

右山を以て以て以て以て以て以て

正統元年

右山を以て以て以て以て以て以て

正統元年

右山を以て以て以て以て以て以て

正統元年

右山を以て以て以て以て以て以て

正統元年

右山を以て以て以て以て以て以て

正統元年

右山を以て以て以て以て以て以て

正統元年

右山を以て以て以て以て以て以て

正統元年

右山を以て以て以て以て以て以て

正統元年

右山を以て以て以て以て以て以て

正統元年

右山を以て以て以て以て以て以て

正統元年

後水尾天皇御

かきつばしはてこととてふふおかしき事とておぼしめされし御座りし

君の昔よまをりむうをちのてん人あをりおぼしめさるゝわとて

おぼしめされし御座りし

おぼしめされし御座りし

おぼしめされし御座りし

おぼしめされし御座りし

おぼしめされし御座りし

おぼしめされし御座りし

おぼしめされし御座りし

おぼしめされし御座りし

おぼしめされし御座りし

おぼしめされし御座りし

おぼしめされし御座りし

松山道子

小林妙子

伊豆山

松山道子

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

A large table with multiple columns and rows, containing handwritten entries. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

Handwritten text at the bottom left of the page.

Handwritten text in the middle section of the page, possibly a summary or a specific entry.

Handwritten text in the lower middle section of the page.

Handwritten text at the bottom right of the page.

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

正白の... 子

る家子に於ては云々や山形林に著すは云々

本記の

有六

百年の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有七

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有八

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有九

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有十

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有十一

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有十二

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有十三

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有十四

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有十五

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有十六

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有十七

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有十八

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有十九

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有二十

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有二十一

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有二十二

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有二十三

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有二十四

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有二十五

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有二十六

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有二十七

本記の昔に於て云々や山形能行より云々

本記の 有二十八

跡三十一首和歌

左大臣権中納言藤原吉村

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

と云々 本記の昔に於て云々や山形能行より云々

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are small and difficult to decipher.

合章庵開泰日滿津府居士謹啟

君諱定守，性為尔，內為源，祿為身。性改其世，世
仕於藝，藝公博，意以理，休及在，信之文，君生七年而
孤，乃養安，養以年，至保十年，理也。世子信，年十三年，
君也。小性，十三年，身小性，但二十三年，身小性，延
其三年，身小性，但二十三年，身小性，延其三年，身小性，
十三年，身小性，但二十三年，身小性，延其三年，身小性，
宣統六年，身小性，但二十三年，身小性，延其三年，身小性，
自維，維也。於此，公春，其夢，其既，其於，其是，故，難，其以。

高 君在者固則未嘗不主言其德則既不難則即欲附君未
嘗不也且其人又方有巧偽者則奉先中少不年每以直事
而打馬轉樹不為改實之人後不言貨利之富轉樹中在職能暗
時以廉為智夫此正德 官之不都 甚中則於而亦亦之誠若
既慎而猶未之任伍長思之陶不實推物換債另秋學之守史
在物中見之既余值定使人語曰 宋傳率不情始方又之伍伍
長林君之方也伍伍不為于醫一可板左何 宋乃謝曰伍長長
以是下我物逐馬於芝 名乃祥然明之 伍自自石則守大
獨四又又向余于也吾耶於人失信亦有定矣犯定實者既 君方
也且吾又欲飲駐吳大馬吾耶 能與同形志死矣為死於就僚
身之私告宋亦大身之信使就成及向和爾之也且逐伍長而得
實得也 公嘗有德夜寧多信石石三月不得之市寸 後云

此科最愛之而勸夫至去寢食且注曰君亦不祿惟其代之得者
也 武考也吾之物也又定信私於王祝我於王地彼曰夜且向於以
信留得成以春檢案而款一方君在 項公于方中少矣爾
陳公評于委合其聖神之誠遠或阿亦約得論不決老信臣
功者神武不難打未過 夫值地使致論君使君性優出誠
逐逐說林誠這生欲於安字其情也如正言信方之面世
君不心竟情節也將地非 伍公信留宋氏一方諸將則方
龍儀一寸中打王應佛花令乘代地之心已有功陸公若老為定
步陸不盡宋君二年生及 公又張高安考勅法呂子子也也
隨公四可也惟能妙能反引我考考作天於也雖這飲也 公及
而英是道主信神於陸公考端人候與志惟信臣道公不決而
入第也趨均入候社席的評注曰 君考於不之也 宋考於不之

○高僧傳中 行狀 形多不字 ○小水少可 陸勢多不字

○傳九 形多不字 香新の字を承を傳つて 住野けり 本行 形多不字 形多不字

○赤雲 形多不字 傳道方を 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○信心 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○陽心 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○河内 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○光孝 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○中四 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○左平 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○美奈 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○伊勢 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○本性 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○大江 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○三陸 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○清春 形多不字 傳道 住野けり 形多不字 のりて 出立を 形多不字

○...

○...

○...

○...

○...

○...

○...

○...

○...

○...

○法宗深衣又... 月の面のかまけ... 難儀なるもの

○左加於唐... 此の... 命... けり

○右色... 命... 命... けり

○平... 命... 命... けり

○法... 命... 命... けり

○中... 命... 命... けり

○若... 命... 命... けり

○若... 命... 命... けり

○大... 命... 命... けり

○若... 命... 命... けり

○大... 命... 命... けり

○大... 命... 命... けり

○大... 命... 命... けり

○大... 命... 命... けり

○大... 命... 命... けり

○大... 命... 命... けり

○大... 命... 命... けり

○大... 命... 命... けり

○大... 命... 命... けり

